

前期基本計画 総括評価シート

1 基本情報

施策名	3 - 3 拠点がつながるまちづくり				戦略名	拠点創造プロジェクト		
担当	主担当部	都市建設部	主担当課	都市計画課				
	部長名	高石 和明	関係課	市民活動支援課	道路課			

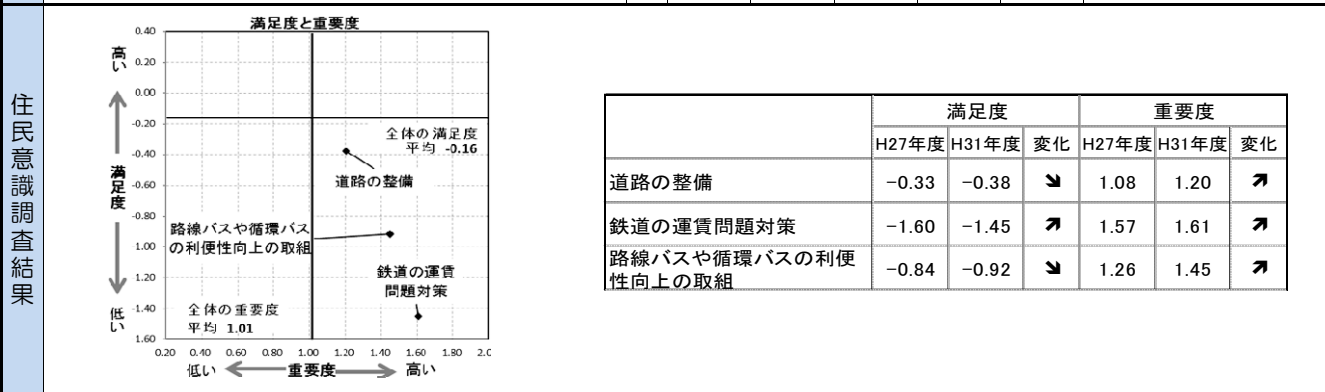
2 取組目標

- 地域の連携や交流を進め、地域づくりの相乗効果を目指します。
- 都市拠点と各地域の拠点をネットワーク化し、まち全体の拠点間を移動しやすいまちづくりを進めます。

3 前期基本計画の成果

取組成果	取組1 コーディネーターの発掘・育成 <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター型人材職員育成研修を開催し、平成28年度から平成31年度までの間に職員87名が受講するなど、地域の団体や市民をコーディネーターできる職員の育成を行うことができた。 ・市民向け地域づくりコーディネーター講座を開催し、平成28年度から平成31年度までの間に市民124名が受講するなど、会議などのコーディネーター力の育成を行うことができた。 ・地域づくりコーディネーター講座の受講者などを対象に、平成31年度に市民協働ファシリテーター登録制度を創設し、23名の登録者により、令和2年度から意見交換会等をコーディネーターするファシリテーターとして登用を開始することができた。
	取組2 都市拠点と各地域を結ぶ道路ネットワークの整備 <ul style="list-style-type: none"> ・市内5地区9路線の市道新設や歩道整備、生活道路の拡幅を行い、地域間交通の拡充及び歩行者等の安全性が向上した。（平成31年度末時点における用地取得率22.9%、整備率25.4%） ・木地区と十倉一地区を結ぶ構想道路について、平成31年度において、都市計画決定及び事業認可について県との協議では実現可能との回答を得ることができ、木地区自治会に対しては説明会を行うなど、拠点を結ぶ構想道路の計画化に向けた業務が進捗した。
	取組3 利便性の良い交通ネットワークの確保 <ul style="list-style-type: none"> ・北総線沿線地域活性化協議会に参加し、沿線地域の活性化策の検討や構成団体と連携した啓発活動などを行うことにより、鉄道事業者と沿線地域が一体となってまちづくりや地域の賑わいの創出に向けた取組を進めた。 ・市内全域で循環バスを運行し、交通弱者の移動手段の確保のほか、公共施設の利用促進、交通不便地域の解消を進め、日常生活における外出の機会の拡大を推進した。 ・地域公共交通活性化協議会において、循環バスの見直しルート案について具体的に検討するなど、将来に渡り持続可能な公共交通ネットワークの形成に向けた取組が進んだ。

成果指標	施策指標名	単位	基準値	実績値		目標値	達成度	達成状況	
				H28年度	H31年度			R2年度	達成率
	市内を移動する際に不便を感じる市民の割合	%	-	74.2	70.7	62.0	△	◎ 目標達成	100%以上
	地域活性化を実践するコーディネーター数	人	-	0	23	20	◎	○ 目標に近づいている	75%以上
	市内の道路網に対する満足度	%	-	48.4	46.7	58.0	△	△ 基準値を現状維持	50%以上
	バス・鉄道などの公共交通機関に対する満足度	%	-	16.1	4.0	33.0	×	× 基準値より悪化	50%未満



4 前期基本計画の総括(主担当部長による評価)

評価	A	目標を上回る成果があった	C	目標をやや下回る成果となった
	B	目標どおりの成果があった	D	十分な成果があらなかった
評価理由	<p>成果指標や住民意識調査の一部については、長期的な視点が必要であるとはいえ、現時点は十分に成果が数値に表れていないものもある。</p> <p>一方、数値化できない成果として、各取組においては、コーディネーター発掘・育成では職員、市民ともに講座を通じてコーディネータースキルの向上が図られた。また、道路ネットワーク整備では構想道路の計画化に向けた説明会や市道新設・既存道路拡幅などを実施し、交通ネットワーク確保では沿線自治体と連携した鉄道の利用促進の取組を実施し、循環バスのルート等の見直しを具体的に検討するなど、取組目標に向けて着実に進んでいることから、総合的にみて本評価とした。</p>			

5 後期基本計画への反映

県により事業化への手続きが進められている北千葉道路西側区間など、広域道路ネットワークと市内幹線道路計画との融合を図り、面的整備や交通ネットワーク等の地域づくりを推進する。

6 総合計画審議会の意見

「施策3-1 都市拠点がにぎわうまちづくり」に記載。